

平成 21 年度第 3 回社会福祉学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事録

- I. 日時：平成 21 年 10 月 23 日（木） 16：00 から 18：00 まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務室会議室
- III. 出席者：山路委員、井上委員、天野アドバイザー、井端事務局長、森下、恩田
配付資料：社会福祉学教育の学士力ー到達目標の設計（案）

〔議事内容〕

1. 社会福祉学教育の学士力ー到達目標の設計

委員長から提出された、社会福祉学教育の学士力に係わる到達目標案を中心に、他委員から提出された到達目標案を加えながら、一つ一つの項目を議論していった。到達目標全体に対する意見として、次のようなものが出された。

到達目標設計（案）そのものが、次の順序で記述される必要がある。すなわち、①人間と社会に関する理解、②対象者の理解、③支援者自らの理解、④ソーシャルワーク方法論の理解、⑤社会サービスの理解である。

到達目標の各項目に対する意見として、次のようなものが出された。

①人間と社会に関する理解について

- ・「人間と社会環境の視点から」は、分かりにくい表現である。「人間と社会環境の共生の視点から」とした方がよい。
- ・到達度に時間軸の視点が欠けている。すなわち、現代社会の諸問題がなぜ発生しているのか、歴史的な観点を加えた方がよい。

③支援者自らの理解について

- ・到達度の項目が細分化しすぎているので、整理して表現した方がよい。

④ソーシャルワーク方法論の理解

- ・ソーシャルワークのプロセスに合わせた到達度の設定になっているので、この点をはっきりと明記した方がよい。

⑤社会サービスの理解

- ・社会資源で足りないものを掘り起こしたり、NPO の考え方も含めると、「企画する応用力」という表現よりも、「開発していく力」が適している。

このような意見交換の結果、別紙のように到達目標（案）が修正された。

次回委員会開催予定日 平成 21 年 11 月 9 日（月）12：30～14：30

以上